九共大紀要
第12巻 第2号
2022年3月

[原著論文]

ウィズコロナ時代における国際交流に関する一考察
――内蒙古大学外国語学院の取り組みを中心に――

黄 冬柏[1)]，于 衛紅[2)]，沙 秀程[3)]，包 賀喜格図[2)]，孫 桂玲[4)]

A Study of International Exchange in the With COVID-19 : With a Focus on Efforts of Foreign Language College of Inner Mongolia University

Dongbai HUANG[1)]，Weihong YU[2)]，Xiucheng SHA[3)]，Hexigetu BAO[2)]，Guiling SUN[4)]

Abstract

In this paper, I would like to consider various issues related to international exchange and the acceptance and dispatch of international students in the With COVID-19 era by investigating the system for international exchange and the acceptance of international students at Inner Mongolia University, an overseas partner university, as well as the actual situation of dispatching students to Japan, and in particular by considering the efforts of the Japanese Language Department of the School of Foreign Languages at Inner Mongolia University.

Since its establishment in 1957, Inner Mongolia University has attached importance to international exchanges and established exchange and cooperation relations with 106 colleges and universities and scientific research institutions abroad. The Department of Japanese has maintained stable international exchange and cooperation relations with many colleges and universities and scientific research institutions in Japan, actively promoted the exchanges of teachers and students, and cultivated a large number of international language talents with international vision. In the future, the Department of Japanese plans to further promote international exchanges and cooperation by expanding the sending mode of international students, sending more students with double bachelor' degrees to study in Japan, opening online courses and developing distance teaching mode with agreed schools to respond to the crisis of studying abroad in the With COVID-19 era.

KEY WORDS : international exchange, international student, dispatch, accepting

1）九州共立大学経済学部
2）内蒙古大学外国語学院
3）九州共立大学共通教育センター
4）内蒙古大学国際合作与交流処

1）Faculty of Economics, Kyushu Kyoritsu University
2）Foreign Language College, Inner Mongolia University
3）Career and General Education, Kyushu Kyoritsu University
4）Division of International Cooperation & Exchange, Inner Mongolia University

1．はじめに

新型コロナウイルス感染症による世界的な渡航制限の影響で留学生の受入れや日本人学生の海外派遣などを通じた大学のグローバル化に向けた取組は大きな影響を受けている．新たな変異ウイルス「オミクロン株」への対応で，日本政府は2021年11月30日から当面１か月間の措置として，すべての国と地域からの外国人の新規入国を停止し，2022年1月以降も入国停止の継続を検討している．コロナ禍の影響がいつまで続くのかという不透明な状況にあって，人と人が対面で出会うことを信頼の基盤として築いてきた従来型の国際交流も，ウィズコロナの時代にあって大きな転換期を迎えようとしている．

九州共立大学（以下「本学」と略す）においては第３次中期経営計画（2019年度～ 2023年度）の基本目標の一つとして「海外協定校との国際交流を促進する」ことを定めた上，具体的な施策として，国際交流システムの構築に向け，海外協定校との連携の充実や，グローバル化への対応の強化などを掲げられている．則ち，学生支援の一環として，海外協定校との国際交流を通して，海外協定校からの留学生の受け入れを促進しながら，本学学生の国際社会への関心を高め，海外留学に繋がっていくのである．

本稿では，海外協定校である内蒙古大学における国際交流と留学生受け入れの体制および日本への学生派遣の実態を調査し，とりわけ内蒙古大学外国語学院日本語学部の取り組みについて考察しながら，ウィズコロナ時代における国際交流および留学生の受け入れと派遣に関する諸問題について考えてみたい．

2．内蒙古大学における国際交流について

内モンゴル自治区の首府であるフフホトに位置する内蒙古大学は，中国の少数民族地域で最も早く設立された総合大学である．1957年に創立された当初から，著名な生物学家（北京大学教授・イエール大学博士）の李継侗先生をはじめ，名門大学十数校から優秀な教員が派遣され，高いレベルの教師陣が形成されていた．1978年に全国重点大学[1]，1997年に国家「211プロジェクト」[2]に指定され，2004年から内モンゴル自治区と教育部（日本の文部科学省に相当）の共同管轄になっている．また，2012年に国家「中西部大学総合実力向上計画」校，2016年に内モンゴル自治区「一流大学構築支援」校，2017年に国家「一流学科構築」大学[3]，2018年に「部省合建」大学に続々と選定された．創立65年以来，内蒙古大学は「求真務実」という学是と「崇尚真知・追及卓越」の大学理念を踏まえ，地域特色に富んでいる中国北疆に輝いた総合大学として各分野共に発展を遂げてきた．特に中国少数民族言語文学・動物学という二つの国家級重点学科は国内外でも有名である．

大学には現在約27300名の学生（学部生15834人，修士課程6741人，博士課程812人，留学生450人など）が在学している．その中，モンゴル族・ダウール族・エヴェンキ族・オロチョン族などの少数民族学生が約30％を占めている．1286名専任教員のうち，博士学位を有する教員は75.73％に達している．哲学･経済学･法学・教育学・文学・歴史学・理学・工学・農学・管理学・芸術学など11の専門分野を有する総合大学として，23の学院と63の研究機関から構成され，95の専攻・130の学部教学実験室および97の教学実習実訓基地があり，40分野の修士学位授与学科・12分野の博士学位授与課程および８のポストドクター科学研究流動ステーションを擁している．

内蒙古大学は従来国際交流を重視し，大学においては第14期五ヵ年計画（2021年度～ 2025年度）の発展目標の一つとして，学部生課程改革の実施とその達成方法および教学内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにし，学位の質の保証と持続的向上を目指す一方，外国協定校との国際交流を促進し，留学生派遣と協定校間の教員支援政策の強化などを掲げている．現在，アメリカ・カナダ・日本・ロシア・モンゴルなどの16ヵ国と地域の107に達する大学・研究機構および会社と交流協定を結んでおり，そのうち，日本の大学と研究機関の数は23に達している．各プロジェクトを合わせて，毎年35の国家から約200人の留学生を迎えている．内蒙古大学国際合作交流処の統計によれば，新型コロナウイルス感染症が発生する前に，内蒙古大学の国外協定校から派遣された教員および学生数（長期と短期の二種類）は毎年300人余りに上っていたが，2020年からコロナ禍による入国制限の影響で国際交流人数は大幅に減少しているとのことである．しかしながら，各国の学生の海外留学に対する想いは途絶えたわけではなく，コロナ禍が収束する時期を窺い，大学情報の検索や，留学のための外国語学習などの準備を継続して行っている状況である．ここ数年の外国人留学生を受け入れる状況は表（1）にまとめた通りである．

表１．2017 ～ 2021 年度 内蒙古大学国際教育学院の受け入れた外国人留学生数

	国名	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	小計
1	エチオピア			1			1
2	パキスタン	1	1	3	2	3	10
3	朝鮮	1					1
4	トーゴ	3	1	2	1		7
5	ロシア	37	25	21	1	1	85
6	カザフスタン		1	2			3
7	韓国	1	3	4			8
8	オランダ	1					1
9	キルギスタン	4	1	1	1		7
10	ガーナ		1				1
11	カンボジア	1	2				3
12	ジンバブエ	1					1
13	コートジボワール	2					2
14	ラオス	2	2	4	4		12
15	ルクセンブルク	1					1
16	ルワンダ	2	2	2			6
17	アメリカ	2		1			3
18	モンゴル	167	123	119	97	114	620
19	バングラデシュ	2		1			3
20	モロッコ			1			1
21	ナイジェリア			5	1		6
22	南アフリカ	1					1
23	日本	4	1	5			10
24	スーダン					1	1
25	タジキスタン	2		2			4
26	タイ			1	1		2
27	トルコ	1					1
28	ウガンダ		1				1
29	ウクライナ	3					3
30	ウズベキスタン	2					2
31	スペイン	1	1				2
32	インド	2		2			4
33	インドネシア					1	1
34	イタリア		1				1
35	イギリス	1					1
合計		245	166	177	108	120	816

出所：内蒙古大学国際教育学院の統計データに拠る

内蒙古大学は今まで自治区内で最も国際交流を重視している大学である．諸外国の多くの大学や研究機関と連携し，国際交流事業を推進し，教員と学生の海外派遣に積極的に支援してきた．文化体験や国際会議などの学術活動・短期研修から長期派遣まで，様々な国際交流プログラムを組んで，留学生は専門知識を身につけると同時に，国際的な視野も広められた．外国人留学生の受け入れは大学の国際教育学院により行われており，学生の派遣は国際合作交流処および教務処の指導の下で各学院により実施されている．具体的に，本学の経済学部へ多くの留学生を送ってきた外国語学院の取り組みについて考察してみたい．

３．外国語学院における留学生派遣について

内蒙古大学は2010年3月に本学と友好交流基本協定を締結し，頻繁に相互訪問などを実施し，親睦を深めてきた協定校である．学生交流分野においては，同大学は2018年9月まで本学に38名の編入留学生・２名の短期留学生を派遣した．そのうち，外国語学院の学生は九割以上を占めている．

内蒙古大学外国語学院は1999年に設立され，その前身は1978年に創立された内蒙古大学外国言語文学部である．学院には英語言語文学・日本語言語文学・ロシア語言語文学の三つの専攻と大学外国語教学部のほか，五つの国際文化研究センター（アメリカ，日本，ロシア，カナダ，オーストラリア）があり，内蒙古自治区では最も多くの外国語の専攻を有する外国語学院である．今現在，修士学位を授与する一級学科（外国言語文学）一つ，並びに修士学位を授与する二級学科（英語言語文学・ロシア語言語文学・日本語言語文学と外国言語学および応用言語学）４つを有し，英語翻訳・英語通訳・ロシア語翻訳・日本語翻訳という４つのMTI修士授与資格を持っている．開設された外国語が日本語・英語・ロシア語・フランス語・ドイツ語の５言語に達しており，そのうち，英語は国家認定のハイレベル専攻，日本語は内モンゴル自治区認定のハイレベル専攻であり，日本語言語文学・ロシア語言語文学・英語言語文学は内モンゴル自治区のモデル専攻である．学院の教師陣は充実し，126名教員のうち教授と准教授は49人で，全員が修士（博士学位所有教員39名・博士課程在籍教員８名）以上の学歴である．また，毎年10人余りの外国人教師（英・日・ロシア）を招聘している．在学生は1400人余りで，その内訳は，大学院生は300人，学部生は600人，ダブルディグリーの学生は約500人となっている．

日本語学部は1979年に設立され，40年以上の発展を経て，教育のみならず国際交流においても大きな成果を収めてきた．中国の北部国境に位置し，北方モンゴル族文化と日本文化および周辺国の文化研究を重点に置きながら，言語・文学・社会および経済貿易などの広い分野の比較研究を行ってきた．現在，日本語学部の18名の教員の中には，モンゴル語・中国語・日本語に精通した者が９名おり，全員が日本での留学もしくは研究活動の経験を持っている．第13期五ヵ年計画実施以来，四つの中国国家社会科学基金プロジェクトと内モンゴル自治区档案局（公文書管理局），フフホト市档案館（市公文書保管処）に依頼された歴史公文書翻訳プロジェクト（計四期）を受け持ち，研究経費補助金は300万元（約5500万円）以上に達している．今現在，日本語学部には230名の学部生と90名の大学院生が在籍している．「日本語の言語基礎を構築すると同時に，広範な科学文化知識・卓越した専門能力・良好な文化教養と高い異文化コミュニケーション能力を持ち，社会発展のニーズに応える革新型・応用型・複合型の日本語人材を育成する」という目標を掲げ，数多くの日本語人材を育成しているのである．

大学には教学研究の支えとなる日本学研究センター及びフフホトふれあいの場も設置されている．国際シンポジウムや日本文化祭や各種イベントなどの開催により日本語学習者に貴重な文化体験の機会を提供している．また，日本の大学や研究機関と交流協定を締結し，交換留学制度や教員派遣制度を通じて積極的な交流関係を持続している．留学プログラムについては，主にダブルディグリープログラムと交換留学プログラムがあげられる．ダブルディグリープログラム（２＋２）とは，学生が日本語学部で２年次までの課程を修了した後，海外の協定校で２年間（３年次編入）の課程を修了することによって，双方の大学の学位を授与するという制度である．海外交換留学というのは，大学間に締結した協定に基づき，日本語学部もしくは大学院に正規生として在学している学生が，在籍のまま，海外の協定校に１年間留学する制度である．授業料などを免除するケースもあり，短期交流で，留学先の大学で取得した単位を認定されれば互換可能である．そのうち，ダブルディグリープログラム（２＋２）を通じて海外へ留学に行く学生は，交換留学に参加する学生より人数が多い．海外協定校の入学時期は毎年の４月と９月という２つの時期があるが，内蒙古大学の卒業時期に間に合うために，ほとんどの学生は９月入学

を選ぶことになる．2021年現在，日本の大学との主な留学プログラムは表（2）にまとめた通りである．

表２．外国語学院日本語学部と日本の協定校による留学プログラム

協定校	プログラム	専攻	期間
九州共立大学	学士学位取得（2+2）	経済・経営	２年
九州女子大学	学士学位取得（2+2）	人文	２年
関西国際大学	学士学位取得（2+2）	経営・国際コミュニケーション	２年
	交換留学（１年）		１年
長崎外国語大学	学士学位取得（2+2）	日本語	２年
	交換留学（１年）		１年
阪南大学	交換留学（１年）	経済・国際観光・国際コミュニケーション	１年
岐阜大学	学士学位取得（2+2）	教育	２年
	交換留学（１年）		１年
鳥取大学	学士学位取得（2+2）	地域	２年
	交換留学（１年）		１年
愛知大学	学士学位取得（2+2）	経済・国際コミュニケーション	２年
桜美林大学	学士学位取得（2+2）	福祉・言語	２年
大分大学	学部生・院生交換留学	経済・教育	１年
神奈川大学	院生交換留学	外国語学・歴史民俗資料学	１年
東京外国語大学	院生交換留学	総合国際学	１年

出所：内蒙古大学国際合作与交流処の統計データに拠る

大学の教育目標に基づいて，学生は以上の留学プログラムに従い，海外協定校との交換留学制度を利用して，自身の専門分野に関する知識を深めると共に，海外の留学生活を通して国際感覚を身に付け，自国文化の個性を知り，将来において日中両国の架け橋となる日本語人材を育成することを目的としている．2021年9月より日本語学部の新入生の定員数が60人から50人に変更されたため，今後の学生派遣に多少影響されるであろう． 従って，現在の大学の実情を踏まえ，ウィズコロナ時代における国際交流を順調に実施していくために，以下の対応策を考えている．

3.1「学部＋大学院」一貫性の留学プログラムを取り入れる

編入生として日本で２年間の留学生活が終わり，直ちに帰国することではなく，大学院の入学試験を受け，修士学位の取得を目指す学生が少なくない．今までの「２＋２」の編入留学コースは，これらの学生にとって卒業後の進路に対して多少不安を感じられるであろう．特に，卒業直前になれば，大学院の入試準備・卒業論文および経済的な負担などの問題が生じる．もし，留学生を受け入れる本学と「学部＋大学院」一貫性の留学プログラムに取り組んで，２＋２＋２もしくは３＋１＋２などの形で留学生が大学院修士課程へ進学できる条件を整えれば，今後は多くの留学生をひきつけられる見所になるのであろう．

3.2 ダブルディグリー学生（日本語を副専攻とする他学部の学生）の留学派遣

日本語学部には日本語専攻の学部生，言語文学学科の修士とMTI修士が在籍しているほかに，土・日曜日の時間で日本語を副専攻として学習する他学部の学生もいる．これらの学生は大学在学中，日本語と日本文化に興味があるので，３年間の日本語専攻の授業を受けて，日本語能力試験２級レベル以上の日本語能力を備えている．日本語を副専攻とした学生の中には日本語を利用し，主専攻の知識を生かし，日本に留学しようとする人はかなり多い．もし共同養成の方式で日本の大学とより具体的な協議を締結すれば，これらの二つの学位を目指す学生に大学院へ進学のチャンスを提供することで，定期的に一部ダブルディグリー志向の学生が協定校の大学院に進学するだろうと思われる．

3.3　協定校間における遠隔学習とオンラインコース開発の試み

インターネットに広がる無限の可能性を活かすことにより，人と人とのつながりが緊密になり，空間的な距離を超え，違う国に住みながら，インターネットを活用して外国の大学および教育研究機関とつながり，質の高い高等教育を低コストで受けられることも可能になる．従って，各国に流行ってきた遠隔学習はすでに主流とも言える新しい教育方式となっている．特にウィズコロナ時代により，留学先の教育現場では思いがけない困難に遭遇する可能性がある．これから，これらの状況に乗じて遠隔教育には大きな発展の余地をもたらしてくるに違いない．また，教育ソフトウェアの開発利用が次第に進むことによって，学習に必要な機能はますます便利になってきた．実況放送や録画・資料提示など基本的な遠隔授業のほか，リアルタイムで学生の学習を指導することもでき，オンライン試験と各種のテストの機能をも備えている．さらに，遠隔学習とオンラインコースなどの形式で，対面授業の時間と空間の制限などの面にあるデメリットを大幅に補うだけでなく，オンラインで教師と学生のインターアクションを行うことができ，データベースを共有して学習が楽しくできるようになった．協定校の協力を受けながら，コロナウイルス感染症による影響で現地への留学することができない学生にオンライン学習機会を提供することで，本国にいながらも外国の教育を受けることが可能となり，より多くの国際的な人材を養成できるはずであろう．

3.4　協定校における教員の相互派遣の促進

内蒙古大学外国語学院日本語学部の教員は，客員教員として協定校に招聘され，教育研究活動を展開し，本年度もシンバヤル先生が特別客員教授として本学共通教育センターに着任されている．外国へ訪問できない教員も大学の交流プラットフォームを利用し，研究および学術活動など多様な交流活動を通じて国際交流への理解を深め，大学の国際化を促進するため多大な成果を収めたのである．一方，内蒙古大学は協定校の教員に教育研究活動を展開できる条件づくりに取り組んで，多くの協定校教員を招聘する計画も立てられている．日本語学部には毎年３～５名の日本人教師が在籍している．日本人教師は授業のほかに，日本語学部の学生を指導して，スピーチコンテスト・作文コンクール・文化祭など，様々なイベントに大きな役割を果たしている．今後，協定校から大学教員の派遣をしていただき，教員間の共同研究を行うと同時に，協定校及び周辺の状況や学習計画，卒業後の進路などを学生たちに紹介すれば，留学を考える学生にとって，安心的な留学への道案内になるのあろう．

４．おわりに

内蒙古大学における国際交流と留学生の受け入れ体制および日本への学生派遣の実態を調査し，とりわけ外国語学院日本語学部の取り組みについて考察してきた．留学生支援制度奨学金の活用や，実践的な語学教育の強化・海外協定校との単位互換，ベトナム・韓国など新規海外協定校の開拓，デジタル化を推進する基盤となる設備整備など，様々な課題が残っているが，ウィズコロナ時代においても，デジタル技術を活用して，内蒙古大学などの海外協定校からの留学生の受け入れを促進した上，本学の学生の国際社会への関心を高めれば，海外への留学にも繋がっていくであろう．大学の各関係部署は緊密な連携を図り，今後の課題を共有して解決し，可能な限り学生のために最善のサービスを提供することが求められている．

新型コロナウイルス感染拡大による影響は計り知れないもので，人の行動や教育と生活のあり方など，今までの有り様を悉く塗り替えられており，大学における国際交流にも大きな影響を与えている．しかしながら，コロナ禍により国際的な人的往来が制限されたことに伴い，これまでの対面型の授業，国際的な学生交流に加えて，デジタル技術を活用した新しい形態の学修の有用性が顕在化するとともに，新たな潮流の一つになりつつある．教育システムは発展と完備の段階にある各国の大学生に対し，留学と多様な国際交流は依然として魅力を持っており，大学生の重要な発展ルートの一つになっている．

「朋あり遠方より来る，亦楽しからずや」とは言われるが，現地を実際に訪問して学ぶ（いわゆる従来の対面型）留学は，授業時間以外での学生同士の交流，課外活動や多様な人脈の構築，現地での生活による経験など，現地での様々な体験を通じなければ得られない楽しさと価値がある．今後，国際的な人的往来が段階的に回復することも見据え，外国を実際に訪れて学ぶ従来型の留学とオンラインによる授業参加を適切に組み合わせながら，学生の皆さんに期待できるような総合的な国際交流活動を推進していかなければならない．

〔注〕

1）「国家重点大学」は，中国（香港・マカオ地区を除く）の大学のうち，権威ある大学であると政府が認定し，予算の優先配分などの支援を行うものとして，設置者の別を問わず選定された大学のことである．1954年，北京大学，清華大学など6校がはじめて指定され，1978年，内蒙古大学を含む88校が選定を受けた．

2）「211プロジェクト」は，中国教育部が1995年に定めたもので，21世紀に向けて中国の100の大学に重点的に投資していくとしたものである．これら大学は「211工程重点大学」あるいは「211重点大学」と呼ばれ，それまでの「国家重点大学」という言葉に取って替り，内蒙古大学が1997年に選定された．

3）世界一流大学と一流学科の建設は，「双一流」と略し，中国高等教育領域における国家戦略である．2017年9月21日，教育部・財政部・国家発展改革委員会は『関於公布世界一流大学和一流学科建設高校及建設学科名単的通知』を共同で公布し，正式に世界一流大学と一流学科を建設する137大学を選定して発表した．そのうち世界一流大学を建設する大学は42校，世界一流学科を建設する大学は95校であり，世界一流学科を建設する大学として内蒙古大学の生物学が選ばれている．

参考文献

1）多田孝志（2021）『国際交流と学校教育:グローバル時代を共に生きるために』三恵社.

2）国際交流基金編（2020）『国際文化交流を実践する』白水社.

3）池田佳子（2020）「ウィズ・コロナ社会の国際交流」（『心と社会』51巻4号）日本精神衛生会編.

4）内蒙古大学（2019）『外国語学院2018年度本科教学質量報告』.

〔付記〕

本稿は，令和３年度九州共立大学特別教育研究費（プロジェクトテーマ：「国際交流における留学生の受入促進と海外留学の推進に関する研究――内蒙古大学と本学の取り組みを中心に――」，研究代表者：黄冬柏）の助成を受けて行った研究調査に基づいて作成したものである．

Received date 2022年1月7日
Accepted date 2022年1月20日